

③ プールで事故がおこったら！

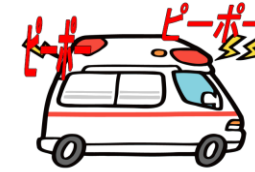
☆まずは、落ち着いて対応

R2年 改訂版

R2.4.30 職員会議連絡 岩田小プール指導の心得

1 プールのサイド方向 **D** **B**からひきあげる

- ① 溺れている児童、異変のある児童発見
- ② 応援職員（補助者）を呼びながら入水し、なるべく早く引き上げる。1人で無理なら複数で。
- ③ 補助者は、他の児童にプールからあがるよう指示をしながら事故現場へ移動。まずは、水から引き上げる。



2 引き上げながら、意識・反応の確認、救急車要請を瞬時に判断
 ☆おぼれていた場合は、意識があっても救急車を要請する。

指導者が3名以上いる場合は、リーダーを決めて、その指示で動く。リーダーは主任や年長者が率先

3 補助者に**119（救急車要請）、AED（タオル・毛布）の指示**、他の児童の安全確保

第1発見者

4 **呼吸の観察** ※呼吸あり→回復体位で様子を観察

回復体位



低体温になることが予想されるため、毛布で保温する。
 ※毛布は管理室

5 胸骨圧迫

1分間に100～120回 胸の厚さの1/3 約5cm

6 可能なら人工呼吸も！

胸骨圧迫：人工呼吸 30：2

※マスクはAEDと青い袋にあり

7 体表の水分を拭き、AEDの装着

水着の肩を切りパッド装着部とその間を拭く

※AED内にハサミあり

※AEDの指示に従ってショック実行

※2分ごとに自動解析

※AEDの音声指示を聞いている人がいるとよい

ずっとつけっぱなしで！

8 直ちに胸骨圧迫

※救急隊員に引き渡すまで絶え間なく、応援職員と交代しながら

※応援職員が多数いたら、患者の周りに立ち、他の児童の視線が届かないよう配慮

※電話後平均約8分で救急車到着

補助者

4 **他の児童に指示を出しながら、管理室のインターホンで職員室へ119と応援を依頼**

患者がDにいたら → A～Bのあたり

患者がBにいたら → A～Dのあたりへ移動するよう指示をしながら動く。

5 **職員室の職員は、携帯電話で119通報しながらプールへ移動し、様子を伝える**

※救急車は正門から入り運動場を通過してプールへ向かうよう誘導

※校内放送で呼びかけ、原則、各学年主任+1名が現場へ集合

※副主任と残りの職員で学年の児童管理

※必ず養護教諭にも声をかける

6 **AEDと青い袋（タオル、人工呼吸用マスク、毛布）を持っていき装着**

7 **他の児童の安全確保**

①プール内を見て、全員水から上がっているか確認する。

②応援職員がいたら、子どもたちを速やかに校舎へ移動させる。ただし、救急車の進路や救急隊員の動きを妨げないよう臨機応変に対応する。

8 状況によって心肺蘇生に参加

全学年共通で指導

① 笛「ピッ ピッ ピー——」で水から上がる

② A (赤) B (青) C (緑) D (黄)



出入口

必要職員〈役割〉

- 1:発見者（児童の引き上げ）
- 2:事故現場の他児童への指示
- 3:職員室への通報者（AED・青い袋・記録用紙）
- 4:他の学年、学級の児童管理
- 5:記録者
- 6:119通報者
- 7:保護者への通報者
- 8:救急車誘導
- 9:児童の健康カードコピー
- 10:心肺蘇生交代要員（多数）

○ 記録用紙は、AEDや青い袋と一緒に管理室に置く

○ 校内放送

♪「主任を含め二人の先生はプールへお集まりください。」が入ったら、他の先生で学年児童の管理をし、プールに集まる。

次の校時のプール指導は見合わせる。